本年も久喜市民の願いに応え、その実現に向け頑張ります！

日本共産党久喜市議団、11月議会での奮闘

南栗橋液状化被災の復興に向けて

公的支援の強化を！

時間が経過しても復興は進んでいません。家屋や地盤の修復には多額の費用がかかるからです。南栗橋地域の復興は久喜市全体の問題です。

固定資産税などの減免や、久喜市独自の支援策１００万円の支援金を地盤改良補修に対応し、期限も延長すべきと求めました。

再液状化防止対策の地盤改良工事がこれから実施されます。国、県、市などから私有地に対する公的支援が欠かせません。２０１３年市民の皆さんと力を合わせて完全復興までがんばります。

市議　石田　としはる

これで良いのか公共交通

循環バスについては、廃止も含めて『公共交通検討委員会』で検討し、その答申に基づいて『久喜市地域公共交通会議』へと協議が引き継がれています。しかし12月27日の第３回協議では、運賃、運行時間帯、便数、また車両形態など15の重要項目に渡ってすでに決定がなされています。

決定事項の特徴と問題点は①循環バス（運賃１００円）を菖蒲・鷲宮の一部まで延伸するがその他の地域は走らせない。②デマンドバス（運賃３００円）を旧3町に運行させるが旧久喜市には予定せず、エリアを越えての運行はしない。地域間格差がおこります。③既存路線の延伸により、旧久喜市の４停留所がなくなる。サービス低下などですが、タクシー・バス事業者への「配慮」が行き過ぎており、利用者最優先の案とは言い難いものです。今後、春までに決め夏には試験運行の予定です。

私たちは市のＨＰだけでなく、住民説明会などでの運行前の情報公開、「利用者・市民の利便性」を最優先させる市民による検証を求めて行きます。

利根保健医療ネットワーク「とねっと」の改善について

昨年7月から運用開始された「とねっと」は、中核医療側の検査結果などを、かかりつけ医が共有でき患者を見守るシステムだが、今後かかりつけ医側の情報も見られるようにすべきです。かかりつけ医との協議も十分するべきであり、参加医療機関（かかりつけ医）をもっと増やす必要があります。県補助金は平成25年度までなので、財政措置を早く計画するべきと要望しました。

市議　渡辺まさよ

「とねっと」とは

利根保健医療圏（久喜・加須・行田・羽生・蓮田・幸手・白岡・宮代・杉戸の7市2町）に在住する患者の医療情報を、かかりつけ医と中核病院（総合病院等）がインターネットで連携し、共有するシステムです。「かかりつけ医カード」が発行され救急時に活用されます。平成25年までは、総額６億４千万円の県補助金が交付される予定です。

市民の願いをしっかり受け止めて！

ヘルパー介助にも報酬を

いま久喜市では、障害者が通院する時、院内でのヘルパー介助に報酬が出ません。市が「必要な介助」と判断すれば報酬対象にすることができます。ただちに実施するよう求めました。

学校給食の試食再開を

合併後、市民や団体が学校給食の試食をできなくなりました。「給食フェア」など地域全体で食育にとりくんでいる市町も多い。試食再開を強く求めました。

職員の休暇取得の改善も取り上げました。

市議　杉野　おさむ

久喜市「新春の集い」

久喜地域　1月19日12時～　栗原記念館
栗橋地域　1月20日11時～　くらっせコミセン
鷲宮地域　2月3日14時～　東コミセン

新しい視点 展望しめす
しんぶん赤旗
日刊紙●月3,400円
日曜版●月　800円